

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 30 日

【評価実施概要】

事業所番号	2110108475		
法人名	医療法人社団 青友会		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	岐阜市則武中3丁目5番17号 (電話) 058-296-0577		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月16日	評価確定日	平成20年8月1日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 20 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋、準防火 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000・35,000 円	その他の経費(月額)	16,500~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(退去時居室修理費 除き償却)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 20 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青木内科・眼科、近石病院、浜田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地にあり利便性が良く、近くに公園があり散歩コースをいくつか持っている。運営主体は医療法人で、診療所の他にデイケアや訪問看護等を併設している。24時間の医療体制があり、本人や家族からの安心と信頼がよせられている。「生きる意欲に繋がる介護」の実践を目指し、毎日職員への意識付けを行い確認している。職員は勤務年数が長く、常勤者の割合が高い。管理者は、できるだけ日勤業務に就き、全職員と共に熱心にケアの向上に取り組んでいる。行事は、年間を通して計画され、利用者の体調や希望をふまえて行っている。行楽やドライブは、乗車席の割り振りや現地の把握等詳細に準備し、実施している。家族会行事には家族の半数が参加している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題であった記録物は、記録の様式や記録方法・内容の検討が行われ改善した。地域の一人暮らし高齢者の地図の作成、見守り支援は個人情報観点から課題が出たため、ホーム周辺の散歩コースを重点にした地図のみ利用者と共に作成し、ホーム内に掲示した。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、提供するサービスの振り返りの機会ととらえ、全職員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、長寿会や自治会連合会の役員、民生委員、民生児童委員、利用者代表、家族代表、ホーム関係者と多くの人に参加し、開催している。隣に小規模多機能事業所を開設し、機能の説明や施設見学を行った。会議では、外部評価結果を資料としてメンバーに配布したり、課題を話しあっている。会議を通し、地域からの理解と協力が広がってきていると感じている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり、意見・苦情を出す機会を設けている。年2回の行事を開催し、家族の協力を得たり、共に楽しんでいる。また、面会時や電話での家族の声を真摯に受け止め、苦情があればすぐ検討し対応に心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域とは運営主体の法人を通して信頼関係があるが、ホームとしても散歩や買い物、外出時には挨拶を交わす関係ができてきている。地域の小・中学校からは運動会への招待がある。防災訓練を法人の他施設と合同で行っているが、今後は地域の人にも協力してもらえるよう運営推進会議を通して協力依頼を続けていきたいとしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「命を守り、生きる意欲を引き出し、快適な生活を創り上げる」の法人理念のもと、「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、残された力でくらしの喜びと自信を」をホームの目標としている。	○	さらには、利用者の地域への係わりや地域住民との係わりを大切にしているホームの活動を、ホーム独自の理念に取り入れられることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時、法人の理念とその実施に向けての「職員行動指針」を朗読、職員の意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人代表が今年度自治会長になったことで、地域との繋がりが増すことや、民生委員、長寿会の会長、青少年とのこれまでの交流を活かし、理解や協力を得ていきたいとしている。小・中学校の行事に参加したり、ホーム周辺地域の地図を独自で作成した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、提供している介護サービスの振り返りの機会とし、職員全員で取り組み、前回評価の改善課題であった記録様式や記録方法について検討が行われた。外部評価の結果は運営推進会議でメンバーに配布し、課題や対応を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会や自治会連合会・長寿会の役員と民生委員、民生児童委員、家族会代表、利用者代表と関係者が多く参加し、2ヶ月に1回開催している。地域の参加者が参加しやすい時間帯を考慮し、土・日の開催としているため行政の参加が得られていない。	○	市の担当者や包括支援センター職員も年に何回かは参加する運営推進会議になるよう、市等に協力を依頼したり、何回かに1回は、平日開催にする等の取り組みも期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の経済的支援のため、財産管理の制度や生活保護制度の活用支援について市に相談し、支援につなげた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康面については、家族の面会時や随時の報告をしている。金銭は、2万円を預かり金として利用者の買い物等の個人的用途にあて、毎月収支報告を行っている。	○	家族への報告は、ホーム全体の活動も大切であるが、個別の日常の暮らしぶりの報告があるとさらに良い。毎月の書類郵送時に利用者ごとの暮らしぶりや健康状態を報告されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会交流会や運営推進会議への参加等家族への働きかけを積極的に行い、家族からの意見が出しやすい環境づくりに努めている。意見箱を設置するものの投函は無く、面会時や電話連絡時の意見を真摯に受け止め、苦情解決のため会議を開催している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの1階と2階で職員異動を定期的に行い、全職員が利用者全員を把握でき、夜間での対応が十分できるように配慮している。隣に小規模多機能事業所が開設され、職員異動があったが、最小限になるよう配慮した。ホーム職員が併設事業所の宿直に入ることもある。	○	利用者に対してはなじみの関係作りを考慮しているが、新事業所の併設により職員の勤務によるストレスが発生しないかの検討も望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は、採用1ヶ月以内にホーム管理者や外部講師を招き実施している。法人は、内部での研修や県の実践者研修への受講、職員の資格取得を支援している。外部研修については、広く情報を提供しているものの、時間的・精神的余裕が無く、参加が低い現状がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入し、研修会で知り合った他ホーム職員と電話連絡できる交流があるが、まだ管理者レベルのことが多い。法人が小規模多機能事業所を開設し、職員の交流もある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居が可能である。入居前面接に加え、入居後に家族からの相談を受ける機会をつくっている。入居後は、利用者がホーム内の雰囲気に徐々に馴染んでいけるように、また、それまでの暮らしが継続するように支援することを目指している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることや得意なことを強制するのではなく、共に行ったり、自分の役割や仕事と思えることの場合づくりを考えて支援している。梅の時期には、梅酒や梅ジュースの瓶詰めを利用者と共に作り、棚に保存し、できた梅の飲み物を寝る前に楽しむ利用者もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の係わりの中で、本人の生活歴や生き方・価値観等を知ることがあり、職員は、その思いや習慣を大切に、本人の力が引き出せるよう場面づくりの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回の聞き取り調査やホームでの日常から把握したことが生活支援実施書、業務日誌の特記事項に記載し、引き継がれている。訪問時に家族から意見を聞き取る等現状の把握に努め、関係者と話し合い計画を立て、家族に確認してもらい同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	重度化や他疾患を併発している利用者への支援が多くなってきている。随時の家族との連絡や他医療機関との連絡を取り、課題への検討、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの法人母体である診療所が、隣接しているため毎月の健康診察のための受診や緊急対応等連携している。併設の小規模多機能事業所の利用者との交流が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接した法人診療所院長がかかりつけ医で、月1回、職員が介助し受診している。認知症以外の疾病もあり、他病院への通院が必要な場合は、家族が通院介助をしている。ホームは、医療機関や家族と連絡をとり、治療方針を把握し、配慮したケアを行っている。	○	毎月行われている受診支援について、受診時の様子や医師からの指示、薬の内容等を、毎月の請求書を送付する際等に一緒に報告されると、より家族の安心につながると思われるので取り組みが期待される。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けて本人や家族と医師、職員間で話し合いが行われ、方針を決め、本人・家族の同意を得て支援をしている。認知症以外の疾病も含めかかりつけ医が相談にのり、ホームでの生活を支えている。ホームでの看取りの実績もあり、重度化した場合における対応指針が作成されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守り、プライドを傷つけないことを基本とし、毎朝「職員行動指針」の意識付けを行い、サービスを提供している。周囲に人がいる場合だけでなく、1人の場合でも、本人への声掛け等尊厳を損ねないように配慮しケアしている。	○	さらには、プライバシー保護の研修やマニュアルの作成をしたいとする取り組みに期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の支度に積極的に参加する、深夜に目覚め居室でテレビを観る、行きつけの美容室で毛染めやエステをする等、利用者の気持ちやペースを大切にした支援を目指している。レクリエーションへの参加は強制はせず、本人の好きなように過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共にする食事等の家事は強制することなく、本人の気持ちを大切にしながら取り組んで支援している。下ごしらえや盛り付け、下膳などできる範囲、その日の体調を把握し、一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は午前と午後に準備し、本人の希望や状況に合わせて、1対1で週3回を基本とし、1人ずつお湯を入れ替え、清潔で気持ちよい入浴を支援している。浴槽のまたぎが困難になった方には、シャワー椅子やリフトバスを活用したり、2人で介助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族会に声をかけ、春の花見、秋のバーベキュー等行楽に出かけている。利用者の食事代は、日常の食費からの負担し、半数ほどの家族が参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の公園等いくつかの散歩コースがあり、利用者の希望や体調に合わせて外出を支援している。行きつけの美容院や喫茶店への外出支援も行い、できる限り暮らし地域との係わりの継続を支援する姿勢がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム近くに自宅があり、気になって出かける利用者があり、その人に着いて出かける利用者も1~2人あり、職員は日々状況を把握しながら対応している。基本として昼間の施錠はないが、利用者の状況により家族の了解を得て施錠する場合もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の小規模多機能事業所との合同訓練を年2回実施している。地域の避難訓練には職員が参加している。また、運営推進会議において、災害時における住民の協力支援を呼びかけている。自主防災や要援護者の救出方法等多くのマニュアルや訓練の実施がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表に、食事の摂取量や水分の摂取量を記載している。摂取能力にあわせ、とろみ剤の使用やあら刻みにし工夫している。コーヒーや紅茶、ココア等好みの嗜好品も含め1日1,500cc程度を目安としている。体重は毎月測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広く適度な採光もある。リビングにゆったりしたソファがあり、食後テレビを観に食卓の椅子から移動し座る光景がある。リビングには、折り紙で作った、手先の作業が要る共同作品が飾ってある。生活空間は清潔で、自然の換気がある。	○	生活空間に、利用者が製作した作品の掲示があるが、折り紙の作品づくりは、折り方の順序の理解等利用者にとっては大切な活動であることの理解を家族と話し合い、作品の掲示は季節の作品のみにする等、家族からの理解が得られるような掲示方法の工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、収納家具、冷蔵庫、トイレ、流しが整備されている。ベッドの手配が必要な利用者にはレンタルの紹介がある。テレビや椅子、鏡、仏壇と利用者の希望の家具が搬入され、利用者にとって居心地の良い居場所づくりがされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。